

# ひびきあい

シニアアンサンブルのための楽器知識

## 〔20〕オカリーナ

オカリーナはイタリア語で「小さなガチョウ」と直訳されます。

古くはリコーダーと同様にエジプトや中国に原型が見られます。その後1860年頃に北部イタリアのジョゼッペ・ドナーチという人によって「オカリーナ」と命名され広まりました。

### 楽器の種類

オカリーナは閉管楽器に属します。材料は殆ど陶土によって作られていますが、一部に木製やプラスチック製のものもあります。音域が1.5オクターブと狭いため楽曲によって移調したり、ダブルオカリーナあるいはトリプルオカリーナなどと呼ばれる複数管によって音域を広くしたものもあります。音域は大きく分けて、ソプラノ管、アルト管、バス管の3種類があり、調子もC調、F調、G調のものやB♭調、E♭調のものもあり、これら多種類の音域の異なる楽器による合奏が可能になっています。

価格は5,000円から20,000円位のお手頃な値段からトリプル管のように200,000円以上のものもあります。陶器のため落下などによるひび割れのトラブルが発生しやすく取扱いには注意を要します。



### 演奏方法

音の出し方は立笛と同様にホイッスル式で8つの指穴と2つの親指穴の操作によって音階を作ります。前述の音階の広いダブルオカリーナやトリプルオカリーナの場合は唄口が横一列に並んでおり、ハーモニカのように口を左右にスライドさせて演奏するため、速い曲などの場合は難易度がかなり高くなります。



宗次郎

### 国内のオカリーナブーム

オカリーナの演奏方法はやさしく「4日間で吹ける楽しいオカリーナ」という教則本が市販されているほどです。価格帯も手ごろなものが多く持ち運びが楽です。さらに音域の異なる楽器による合奏が楽しめます。

戦前戦後のオカリーナファンは少数でしたが、現在のようなブームになった原因があります。

何でしょう？ それはTV放送です。

皆様は40年ぐらい前にNHK総合TVで毎週放送された「シルクロード」をご存知でしょう。

そのテーマ曲として喜多郎が作った音楽はシンセサイザーの大変なブームを巻き起こしましたが、その後の、紀行番組で放送された宗次郎のオカリーナのソロ演奏はその素朴な音色にファンが急増しました。

この様なオカリーナ人気のもとに展開された市区町村主催によるオカリーナの講座は、その卒業生による演奏クラブの結成となり、各地でのオカリーナによる合奏が盛んに演奏されることになりました。

シニアアンサンブルにもオカリーナの担当者が活躍している団が見られます。各々フルートのパートを若干音色が異なっても、美しく演奏しておられすばらしいことだと思えます。

(浦和レインボー 煙田陽志恵記 全シ連 岡村補筆)